

21. その他

文献

Mikashima Y, Takagi T, Tomatsu T, et al. Efficacy of acupuncture during post-acute phase of rehabilitation after total knee arthroplasty. *Journal of Traditional Chinese Medicine* 2012; 32(4): 545-548. CENTRAL ID: CN-00905720, PMID: 23427386

1. 目的

人工膝関節全置換術後の亜急性期リハビリテーションにおける鍼治療の有効性評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

高木病院、東京、日本

4. 参加者

人工膝関節全置換術後の患者 80 名

5. 介入

Arm 1: 鍼治療群 40 名 (男性 10 名、女性 30 名、平均年齢 72±7 歳)。通常のリハビリテーションと鍼治療を併用する。ステンレス製ディスポーザブル鍼 (直径 0.16mm、セイリン社製) を、ST31、32、38、SP6、BL23、25、37、57、60、KI3、GB31、39、40、41、42、LR3 に 1-1.5cm 刺入し、20-30 分間置鍼。

Arm 2: 対照群 40 名 (男性 12 名、女性 28 名、平均年齢 73±5 歳)。通常のリハビリテーションのみを行う。

6. 主なアウトカム評価項目

痛みに対する Visual analogue scale (VAS)、膝周囲の腫脹の改善率(CAK)、膝関節屈曲可動域(ROM)改善までの期間。

7. 主な結果

VAS より、鍼治療群で対照群と比較して手術 14、21 日後の痛みが軽減した (P<0.01)。腫脹改善率の前後比較より両群とも改善した(P<0.01)。ROM は鍼治療群で対照群と比較して早期に改善した (P<0.01)。

8. 結論

人工膝関節全置換術後の鍼治療は有効である。

9. 鍼灸医学的言及

記載なし。

10. 論文中の安全性評価

記載あり。合併症はみられなかった。

11. Abstractor のコメント

本研究は現代医学の中での鍼灸の実践を考える上で非常に重要な資源である。本研究によって人工膝関節全置換術後のリハビリテーションにおいて、鍼灸を導入した場合の方がしなかった場合よりも疼痛、浮腫を軽減することが出来、関節可動域の早期の改善が見込めることが示された。術後早期の回復により、QOL および ADL の向上に繋がることも期待される。しかしながら、ランダム割り付けおよび評価者の盲検化が適切に実施されたかどうか明らかになっていない点や効果量が示されていない点において改善が望まれる。今後これらの点が改善された追試が行われ、同様の結果が得られれば、より一層現代医学の中での鍼灸の役割が広がると思われる。

12. Abstractor and date

保坂政嘉、大川祐世 2016.11.10